様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　　6 月　　13 日現在

機関番号：34402
研究種目：基盤 C
研究期間：　2010 度　～　2012 年度
課題番号：22520161
研究課題名（和文）　両大戦間の大阪と上海における西洋音楽受容の比較研究
研究課題名（英文）　A Comparative Study on the Reception of the Western Music in Osaka and Shanghai during Wartime
研究代表者
井口　淳子（　IGUCHI Junko　　）
大阪音楽大学・音楽学部・教授
研究者番号：50298783

研究成果の概要（和文）：
戦間期、1920 年代から 40 年代の大阪と上海における西洋音楽受容について、音楽専門教育と、ロシア人、ユダヤ人亡命者による演奏会や教育活動を対象に、文字資料とインタビューにもとづく調査をおこなった。とくに上海については、当時発行されていた「外国語新聞」、とくに、フランス語 *Le Journal de Shanghai*、ロシア語新聞 *Slovo*、 *Zaria* などを収集、解読することによって「同時代音楽」（バレエを含む）の活発な上演実態を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：
I conducted an investigation on the reception of Western music in Osaka and Shanghai during wartime based on documentation and interviews. The education system of conservatoire and the concerts of the Russian and Jewish refugees of Osaka and Shanghai are compared. Concerning Shanghai, the active performance of “contemporary music” and “Shanghai Ballet Russe” are discussed by referencing foreign language newspapers such as the French *Le Journal de Shanghai* and the Russian newspapers *Slovo* and *Zaria*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 22 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 23 年度	500,000	150,000	650,000
平成 24 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：芸術学
科研費の分科・細目：美学・芸術学
キーワード：大阪　上海　戦間期　洋楽受容　ロシア人亡命者　ユダヤ難民　音楽専門教育　上海バレエ・リュス

１．研究開始当初の背景

日本の洋楽受容史研究が急速に進みつつある今日、東京中心の洋楽受容史に対して、両大戦間期には、阪神地域がモダニズムの先端地であったことに着目し、大阪に焦点をあてた洋楽受容研究を行う必要性を感じていた。

関西の洋楽受容については、資料面で、申請者の勤務校である大阪音楽大学の音楽博物館に所蔵されている 10 万件を超える（明治以降今日までで総数 30 万件余り）膨大な一次資料（校史資料、新聞記事、演奏会プログラムほか）が存在することも背景の一つとなっている。

一方、大阪の洋楽受容と（人的移動の側面から）関わりが深い上海については、租界文化研究による音楽文化史研究の蓄積があるものの、音楽学的研究の欠如を感じていた。そして、租界時代に発行された各種新聞や公式文書、国立の音楽学院関係者による証言など、一次資料の収集と解読にはなお多くの可能性が残されていると考えていた。

1920 年代から 40 年代にかけて、ほぼ同時期に西洋音楽をロシア人など「亡命移民」を介して受容した 2 つの都市の音楽専門教育と音楽活動の実態を、「比較」という視点をもちこむことで、それぞれの都市の受容の特徴を明らかにすることができると考えたのが研究の背景である。

２．研究の目的

1920 年代から 40 年代の「大阪」と「上海」をとりあげ、西洋音楽受容の比較研究をおこなう。当時の上海租界と大阪（および阪神地域）はともに「亡命移民」というかたちで西欧人を受け入れていた。西洋音楽はこれら移民による教育や演奏活動を通して本格的な受容期を迎えることになる。そして、両都市には西洋音楽の専門教育機関が西欧人と直接、間接的に関わりながら急速に整備されていく。当研究では「大阪音楽学校」（創立 1915 年）と「国立音楽院（音楽専科学校）」（創立 1927 年）にまず焦点をあてる。両校でいかなる音楽専門教育がおこなわれたのかを、一次資料および、関係者へのききとりを中心に明らかにする。

次にこの時期の演奏会活動を、プログラムや新聞記事など一次資料を収集、分析することにより明らかにする。

東アジアの二つの都市を同時に研究することで、それぞれをアジアのなかで相対化し、その洋楽受容の実態と特徴を明らかにすることが当研究の最終目的である。

３．研究の方法

大阪については大阪音楽大学音楽博物館が所蔵している一次資料を主として、資料調査と関係者へのインタビューを行った。上海についても、資料調査とインタビューを並行して行った。とくに上海では上海図書館徐家匯蔵書楼において 1920 年代から 1945 年にいたる期間に発行された英、仏、露、そして中国語の新聞を対象として電子媒体や画像データとしての収集、分析をおこなった。とくにフランス語新聞 *Le Journal de Shanghai*(1927-1945)は、音楽面での記事、広告が充実していることから、完全なデータ収集をもくろみ、パリの国立フランス図書館で当該新聞を閲覧し、入手した電子媒体をもとに演奏会プログラムや、亡命者、難民による音楽、バレエ活動を抽出することを試みた。さらに最終年度にはフランス語新聞から抽出した演奏会、バレエ上演をあとづける 2 種類のロシア語新聞の調査にも着手した。

４．研究成果

1920 年代から 40 年代にかけての戦間期における「大阪」と「上海」をとりあげ、西洋音楽受容の比較研究をおこなう研究は、これら二つの都市の洋楽受容における共通点と相違点を浮き彫りにすることになった。この時代、西洋音楽が東アジアに本格的に受容される過程で大きな役割を果たしたのは、祖国を追われた亡命ロシア人と(上海においては)ユ

ダヤ人難民であった。これらの亡命者、難民のなかには母国で一流の専門教育を受けたすぐれた音楽家が含まれていた。政治的な混乱と迫害が、結果として東アジアにこれまでとは異なる層の音楽家を定住させたのである。音楽家たちが活躍した音楽学校（音楽院）、楽団、劇場をめぐる資料をもとめて、日本においては主として大阪音楽大学音楽博物館、及び京都大学文学研究科図書館、上海においては上海図書館及び同、徐家匯蔵書楼にて資料調査をおこなった。3 年間の研究期間のあいだに、特筆すべき一次資料を得たのは、上海図書館徐家匯蔵書楼であった。これまで租界史先行研究においてとりあげられることがなかったフランス語日刊新聞 *Le Journal de Shanghai*(1927-1945) を見出したことにより、亡命音楽家たちが関わった演奏会やバレエ公演などの具体的かつ網羅的なプログラムとその上演内容に対する音楽批評までも読み取ることができたのである。さらに 2012 年 には上海で発行されていたロシア語新聞、*Slovo*、*Zaria* や中国語新聞『新聞報』および「小報」とよばれる小型新聞の音楽、芸能、映画専門紙へと調査対象を拡げることとなった。これらの新聞の複写や電子媒体の入手によって、1940 年前後の戦時下の上海の演奏会情況の把握に一定の成果をみることができた(2012 年、第 63 回日本音楽学会大会における口頭発表「上海租界と 20 世紀音楽 – 亡命ロシア人とユダヤ難民による音楽活動」、および『音楽藝術』2013 年第 1 期に共著、中文論文「20 世紀 40 年代上海租界蘭心大戯院的藝術活動-- 以 *Le Journal de Shanghai*(法文上海日報)為主要 史料」として発表)。一方、大阪については、上海におけるような層の厚い亡命者の活躍は確認できなかった。むしろ、上海との比較で浮かび上がってきた特徴は、日本人による音楽専門教育(私立の音楽学校、私的音楽塾)が尊重されてきた事実であった。大阪や阪神間に居住する西欧人は私的な教育には携わったが、音楽学校を活躍の場とすることはほとんどなく、また活動の場、期間も限られたものであった。

多言語、多民族を受け入れざるをえない半植民地としての上海が、洋楽受容においてはアジアでも突出した先端的音楽都市であったことがあらためて明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

<u>井口淳子</u>、榎本泰子ほか（4 名省略、著者名１番目）著「20 世紀 40 年代上海租界蘭心大戯院的藝術活動-- 以 *Le Journal de Shanghai*(法文上海日報)為主要 史料」(20 世紀 40 年代上海租界のライシャム劇場の芸術活動-- *Le Journal de Shanghai*(法文上海日報)を資料として　)（査読あり）『音楽藝術』2013 年（1）、pp134 -141. http://www.cnki.net/KCMS/detail/detail.aspx?QueryID=2&CurRec=5&recid=&filename=SHYB201301014&dbname=CJFDTEMP&dbcode=CJFQ&pr=&urlid=&yx=

〔学会発表〕（計　１件）

井口淳子　「上海租界と 20 世紀音楽 – 亡命ロシア人とユダヤ難民による音楽活動」日本音楽学会第 63 回大会、2012 年 11 月 25 日、京都西本願寺聞法会館。

〔図書〕（計　　１件）

IGUCHI Junko “Osaka and Shanghai: Revisiting the Reception of Western Music in Metropolitan Japan” in *Music, Modernity and Locality in Prewar Japan: Osaka and Beyond* edited by Hugh de Ferranti and Alison Tokita, Surrey: Ashgate, 2013 (printing)

６．研究組織
(1)研究代表者

井口　淳子　　（　IGUCHI Junko　）
大阪音楽大学・音楽学部・教授
研究者番号：50298783

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：